

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300359		
法人名	医療法人メディカルフロンティア		
事業所名	グループホーム ほおずき		
所在地	〒031-0023 八戸市是川一丁目11-1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市郊外の閑静な住宅街に位置しており、ホームの隣に公園がある。利用者様、職員共に公園を散歩しながら、ゲートボールしている方や子供達に挨拶しながら、公園に咲いている草花を楽しむことができる等、近隣住民と交流ができ又、自然に触れることができる恵まれた環境である。施設近隣に保育園、幼稚園があり、行事の際は、園児を施設にお呼びし交流しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中にあり、事業所内から公園が見え、公園の植物から四季を感じられる。公園へ散歩に出かけ、ゲートボールをしている方々と話をしたり、子供達が遊ぶ姿を見る等、気分転換となっている。又、近隣に幼稚園、保育園があり、行事に参加し交流が積極的に図られている。事業所内は、それぞれの場所を分かりやすく掲示したり、利用者の手作りの作品を飾ることで季節を感じられるように工夫されており、利用者が楽しみながら安心して生活できるような心配りが感じられる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、玄関正面やスタッフルームに掲示し、個々に意識し実践に繋げている。	「誠実に 謙虚に」という理念を、玄関、スタッフルームに掲示しミーティング、ケア会議、内部研修、運営会議などの際、理念を引き合いに出し話し合いを実施し、実践に繋げるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(お祭り)、近隣の幼稚園、保育園の行事に参加し、又、暖かい時期には、利用者様、職員共に近隣の公園へでかけ近隣住民に挨拶し交流している。	地域住民の一員とし、町内会夏祭り、近隣の幼稚園・保育園の行事に参加し日常的に交流を図っている。隣の公園に出掛けることで、地域の方々と挨拶・お話しをする機会があり、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて町内会の方に参加して頂き、認知症について支援方法について発信している。又、高齢者支援センターの方からもご助言を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者様、ご家族様、八戸市担当者、高齢者支援センター担当者、町内会の方、訪問看護師、薬剤師等を交えて施設での取り組み状況、行事報告し意見やご助言頂きサービス向上に繋げている。	2ヶ月に一回会議を開催している。参加者には利用者・家族の参加もあり、分かりやすいようにパワーポイントを使用し、活動報告や行事報告・助言や質問を受けサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八戸市担当者、関係機関には、定期的に運営推進会議に参加して頂いている。実情や取り組みについて報告しており、ご理解、把握して頂ける様努め、ご助言、ご意見頂く等、協力関係を築いている。	市役所担当者には運営推進会議にも出席して頂き、その中で質問をしたり、ファックス等の連絡手段を利用し、市役所側からいつでもフォローして頂ける協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関の掲示板に身体拘束に関する指針を掲げ、身体拘束委員会を2ヶ月に1回実施している。利用者様の状況を常に観察し、職員同士で連携しながら、徘徊ある方には見守りを重視している。玄関の施錠はしておらず身体拘束は行っていない。	内部研修を実施し、身体拘束をしないケアについて周知されている。身体拘束委員会も設置され、指針が玄関に掲示されている。玄関は施錠されておらず、外に行きたい人がいた際は、一緒に散歩したり、見守りにて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を開催し学んでいる。日々の業務で職員間で声がけし、ケア方法について話し合い、共有し虐待防止に努めている。身体拘束ゼロの手引きをスタッフルームに置き周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様があり、内部研修、外部研修で成年後見制度、日常生活自立支援事業について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は、改定等の際は不安や疑問点を伺いながら十分な説明を行い、ご理解、納得され承頂いている。その都度、不安や疑問に思うことはご相談下さいとご家族様へ伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に利用者様の近況を報告する際に、ご意見やご要望を直接訴える機会を設けている。利用者様からは日々の生活の中でのご意見、ご要望をその都度伺える機会を設けている。1階玄関付近に、ご意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置している。面会の際に近況報告をしながら話しを伺い、相談事があった際は、カルテ記入を実施し、管理者不在の際は、管理者と相談し、家族に返答する体制が整えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や日々の業務の中で、職員間の意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。職員間の連絡ノートを活用し情報共有している。	職員間の連絡ノートを活用するほかに、意見ボックスを利用し、意見を会議等で話し合う体制が整えられている。個別面談も年2回実施している。日ごろから職員同士相談しやすい環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務内容の要望、希望がある際は、出来る限り配慮している。資格取得に対し積極的であり、向上心を持てるように働きやすい職場環境の整備に努めている。介護職員処遇改善加算取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、個人によって時間をかける等、人材育成に取り組んでいる。法人内他事業所と連携は図れるっており、法人内外の研修参加に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、その他の外部研修に参加し、交流を図る等、相互研修の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を事前に行い、入居時にご本人様、ご家族様からの要望をお伺いし不安を解消できる様に寄り添うサービスを提供し安心できる関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。話しやすい雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向確認し状態、状況等把握し必要な支援を見極めケアプランに反映させるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者様の状態を見極めながら家事等できることはして頂いている。お互い協力、励ましながらか信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に運営推進会議や行事の参加を促し協力を頂いている。受診時の外出等、ご本人様と共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が、時々面会に来られている。その際は、ゆっくりと過ごして頂くような雰囲気作り心掛けています。	現在までの馴染みの美容院や自宅・墓参り・病院など家族の協力を頂きながら継続するようにしている。知人・親戚とのつながりは、面会や電話、手紙などで交流を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格や関係性を把握し孤立しない様、席の配置等配慮し全員が関わりをもてる様、声かけ支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、「何かありましたらご相談下さい」と必ず声がけている。退所後、ご家族様にお会いした際は、様子を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人様の状態観察し思いや要望を把握するように努めている。困難な場合は、ご家族様に聞く等し、本人本位に検討している。	センター方式にて思い・意向の把握に努めている。その他、日々のコミュニケーションや本人の状態観察にて把握をしたり、家族に伺い、本人本位に検討をしサービスの提供につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、前任ケアマネジャーさんから情報収集し把握に努め、カルテに記載し職員同士で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の特徴や排泄サイクル、日々の生活リズムを把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や申し送りにて職員に伺ったり、面会時、ご家族様のご意見を伺いつつ現状にあった介護計画に反映し作成している。	サービス担当者会議にて職員の意見、訪問看護師・事業所看護師の意見、利用者・家族の意見を反映させ、ケアマネージャーを中心に現状にあった介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画評価を行い、話合いの場を設けた上で介護計画を作成している。状態変化みられた際は、計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を導入し、利用者様、ご家族様の状況に応じたサービスを行なっている。緊急時の受診の対応も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に保育園との交流の機会やボランティアの受け入れを行なっている。地域の行事に参加し楽しみを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に(月1回)協力医療機関の医師がきてくださる。以前から通院されていたかかりつけ病院との関係も大切にしながら通院継続できるように努めている。通院後は、ご家族様報告し情報共有している。	入居前の病院受診を継続しながら、近隣の医師(協力病院)より、月1回往診があり、突発的な体調不良は、ファックスを利用し受診につなげている。通院や家族が対応できないときは、事業所でも対応している。又、受診に必要な情報は、手紙等で伝え情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師が配置されている。又、外部の訪問看護ステーションと契約し、日常的に情報交換を行い、状態変化時は、相談、ご助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関との情報共有している。入院中に職員が訪問し今後の方向性について退院を含め話し合ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の時期が近づいた際は、医師の意見、ご家族様の意向を確認しながら支援している。施設で終末期を希望される方については、看取り同意書より同意頂き、終末期ケアが行なわれている。	重度化した場合、医療面でのケアが強くなると、別な事業所へ転居される方もいる。看取りを希望される方は、できることを説明し同意書に同意を頂くが、医師・家族・訪問看護師等で話し合い、家族の意向を場面場面で確認している。必要に応じて医師(協力病院)の所に行き話し合うこともある。常に情報を共有し地域関係者とともにチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習に参加を促している。施設内にAED設置されており内部研修で講習会も開催している。マニュアルがあり急変時、速やかに対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定避難訓練が実施されている。(年4回)災害訓練も実施している。地域住民にも声をかけ参加して頂いている。	火災・地震等昼夜問わず設定し訓練を行っている。訓練には、近所の方の参加もあり、バケツリレーや水消火器を利用した訓練を行っている。避難場所が隣の公園になっているため、町内会長や近所の方がいつでも駆けつけてくれる体制が整っている。又、近所に系列の事業所があり、協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様の状態を把握し、個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけをしている。	内部研修を行い、一人ひとりへの対応を共有し、人格を尊重し個別に声かけを工夫し誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思い、希望を把握し、利用者様、一人一人にあわせ自己決定できるような場面を提供できるように心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や業務上にとらわれず、個々のペースにあわせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんをお呼びし利用して頂いている。事前にご本人様の希望をお聞きし対応している。入浴準備の際にご本人様にどの洋服がよいか確認し一緒に準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備時、食材をちぎってもらったり等利用者様ができる事をして頂いている。職員と共に茶碗拭きをして頂いている。	利用者と職員が食事の下準備や茶碗拭きを一緒にし、一人ひとりの力を活かしている。又、個人に合わせた食事形態を提供し音楽をかけることで、和やかな雰囲気ですべてできる環境を心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを提供している。むせ込みのある利用者様にはトロミをつけ個々の状態にあわせお粥やミキサー食等を提供、栄養バランス、水分の確保に努めチェックし、情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、口腔ケアに対する重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは、個々の能力に応じた介助を行っている。義歯は、毎日洗浄している。定期的にメンテナンス必要な方は、往診依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。パットの時間帯によってパットの種類を変更したり、定期的なトイレ誘導、声がけは、個々に応じて支援している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄表により把握し、トイレ誘導することで失禁の回数を減らすことが出来ている。排泄回数については、看護師が確認し、必要に応じて飲み物食べ物調整し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響をし、水分摂取や繊維質の多い食事の工夫等、自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日、時間帯は決められているが、個人の希望にて時間を変更したり、入浴拒否の方は、時間をおき対応する等している。気持ちよく入浴して頂けるよう個々に合わせた支援をしている。	利用者の体調に応じ、入浴かシャワー浴か確認し希望に応じて時間を変更している。入浴剤を入れ、利用者の昔話を聞くなどゆったりとした時間を作り、のぼせないように配慮しながら気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、体調、希望に応じ、自由に個々の居室やソファで休息して頂いている。日中、適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴、薬の内容を把握し、介助にて服薬し服薬確認行なっている。事前に服薬前にお薬情報を確認し行なっている。変更あった際は、情報を共有し、服薬後の観察を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し、その人らしく過ごせる役割がもてるように支援している。外出、行事等に参加し気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご希望にそって散歩、ドライブ、買い物等に出かけている。ご家族様のご協力を得て外出へ出かけられる方もいます。	利用者の生家がある方面へ外出したいなど、一人ひとりのその日の希望にそって、散歩やドライブ等、家族の協力を得て一緒に出かけている。車椅子の利用者には疲れないうようミニドライブを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等、ご利用者様のご希望があれば支払いができるよう支援している。立替金にて支払いをしご利用請求書に立替金、計上し請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を利用して頂いている。手紙が郵送で届いた際はご利用者様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節感のある花を飾っている。利用者様に不快な刺激がないように採光、照明、室温等に配慮している。冬期、次亜水を使用した加湿器を廊下、食堂に設置している。傾斜のある廊下には傾斜ありの張り紙を床に貼りわかりやすくしている。	共有スペースでは、職員がそれぞれの係りを決め、照明(明るさ)に気をつけ、花や装飾することで季節を感じ居心地よく過ごせるよう工夫している。又、次亜水を使用した加湿器を設置することで、消毒を兼ねた環境作りへの配慮がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った者同士が、思い思いに過ごせるよう、席の配置を工夫している。ホール内にソファを配置しており、独りで自由に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真等を飾っている。入居時に馴染みのある物を持ってきて頂き、できる限り自宅に近い雰囲気となるようご家族様にもご協力を頂いている。	愛着のある椅子やサイドテーブル・筆筒等持参して頂き、使い慣れたものを居室内に設置し、利用者が動きやすいように工夫することで居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、各居室には、わかるように表示している。環境整備し動線上に障害物を置かないように支援している。		